

コミュニティ福祉学会第9回年次大会 総会資料

(2016年11月12日)

結城 俊哉 (2016年度事務局長)

年間活動報告 (2015年11月14日～2016年11月12日)

～総会次第～

1. 運営委員長挨拶
2. 年間活動報告
3. 運営委員会体制と委員の承認
4. 学会誌『まなびあい』投稿規程改正について
5. 研究実践奨励賞授賞式 受賞のことは

I. 総論

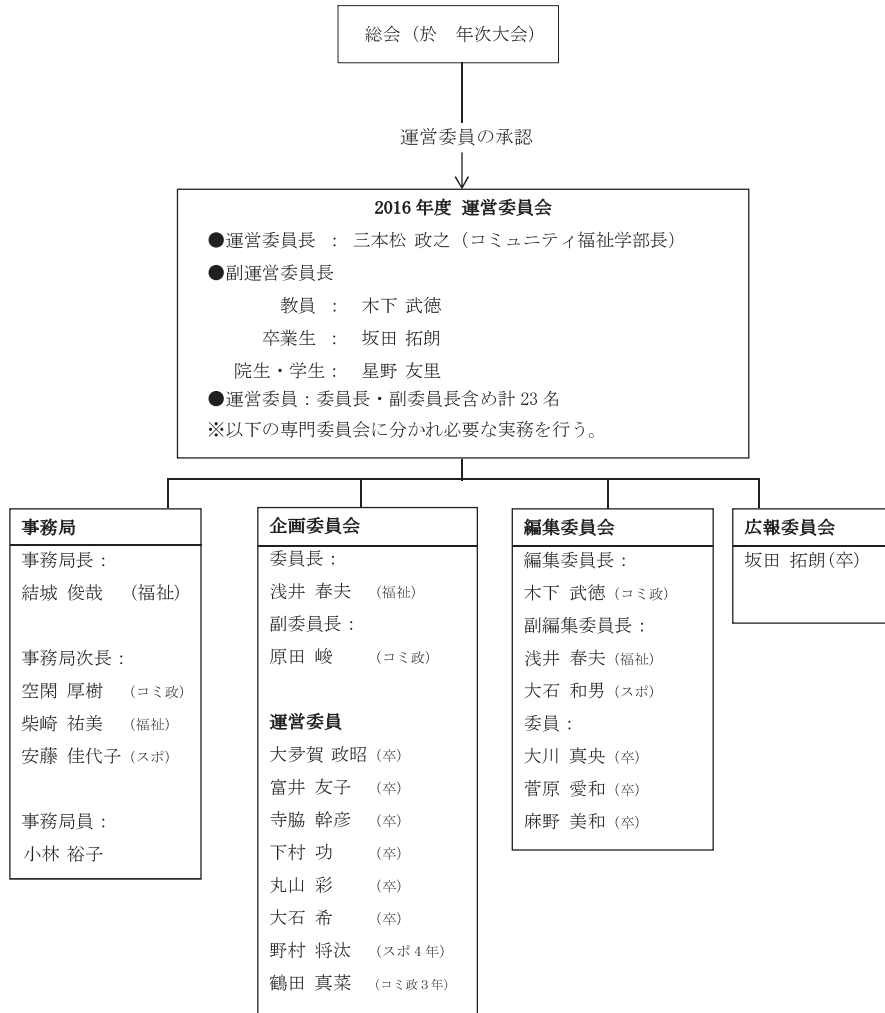
- ・会員数：2016年11月12日現在、登録会員473名、学生会員1,759名、会員総数2,232名
- ・運営委員会：計5回（各回土曜日、於：池袋キャンパスまたは新座キャンパス、19時～）平均出席数15名
- ・主な活動：第9回年次大会開催に向けた準備、学会誌『まなびあい』第9号の発行、研究実践奨励賞の選考

II. 活動報告

日 時	内 容
<b>年次大会</b>	
2015.11.14 第8回年次大会	大会テーマ「戦後70年:NO MORE WAR - 私達の未来と“いのちの尊厳”を考える」 【講演会】「平和と福祉～パレスチナ、障害、沖縄」 ■講師■ 鈴木 良氏（琉球大学法文学部人間科学科准教授） 【分科会】7件 約64名（延べ109人）の参加。 【第1回研究実践奨励賞授賞式】
<b>運営委員会</b>	
第5回	15.12.12 【議題】第8回年次大会の総括、2016年度の運営委員会への申し送り事項について
第6回	16.2.27 【議題】今後の「まなびあい」について、研究実践奨励賞選考方法の決定
第1回	16.5.21 【議題】2016年度の運営委員会体制の決定、第9回年次大会の概要について 研究実践奨励賞選考委員会 【その他】第1回委員会より2016年度新委員により運営開始
第2回	16.6.25 【議題】第9回年次大会の大会テーマの確定・プログラムについて検討、 講演会講師候補の選定、第2回研究実践奨励賞受賞作品の決定
第3回	16.9.17 【議題】第9回年次大会のプログラム詳細の決定
第4回	16.10.29 【議題】第9回年次大会役割分担の決定
<b>編集委員会</b>	
第1・2・3回 運営委員会時に開催	学会誌『まなびあい』発行に向け、本誌内容や募集要綱の検討、編集作業を行う。
学会誌	16.6.27 学会誌『まなびあい』第9号の原稿募集の案内
学会誌	16.11.10 学会誌『まなびあい』第9号発刊
<b>事務局</b>	
機関誌	16.10.13 ニュースレター『まなびあい通信 Vol. 8』を発行。会員に配信、発送する

# 立教大学コミュニティ福祉学会

— 2016 年度運営委員会体制 —



## 「まなびあい」投稿規程の改正について

コミュニティ福祉学会学会誌「まなびあい」について、下記の通り、投稿規程の改正を申請致します。

(\_\_\_\_下線部が改正事項。第9項と第13項に改正あり。)

### 記

#### 1. 改訂内容

改訂前	改訂後
<p>「まなびあい」投稿規程</p> <p>1. 本誌の趣旨 本誌「まなびあい」は、立教大学コミュニティ福祉学部卒業生、コミュニティ福祉学研究科修了生、在学生および教職員間の相互交流と、学部在籍時および卒業後の学びにおける実践報告、論文等を掲載・発表することを目的とする。原則として、立教大学コミュニティ福祉学部卒業生会員、コミュニティ福祉学研究科修了生および掲載号の締切日における在籍教職員会員、在学生会員、学外会員が投稿できるものとする。</p> <p>2. 編集委員会 編集委員会は、コミュニティ福祉学会によって選任された教員、卒業生、院生等によって構成され、本誌の編集に関する業務を行なう。</p> <p>3. 原稿の制限 投稿原稿は、他誌に未掲載のものに限る。</p> <p>4. 原稿の種類 【研究論文】 執筆者が調査、分析、論証を行い、何らかの新しい知見を提起する学術論文。 【研究ノート】 論文に準ずるが、比較的短い字数で提示できるもの。一定のまとまりがあれば、中間報告でもよい。 【実践記録、実践報告】 執筆者の実践の記録や報告をまとめたもの。 【書籍の紹介】 「まなびあい」の趣旨に関連するテーマについて書かれた書籍の紹介（書評）をまとめたもの。原稿著者の希望によって、紹介に対する書籍著者からの文章（書評へのリプライ）を記載することができる。書籍著者への依頼は、原則、原稿著者が行うこととする。</p>	<p>「まなびあい」投稿規程</p> <p>1. 本誌の趣旨 本誌「まなびあい」は、立教大学コミュニティ福祉学部卒業生、コミュニティ福祉学研究科修了生、在学生および教職員間の相互交流と、学部在籍時および卒業後の学びにおける実践報告、論文等を掲載・発表することを目的とする。原則として、立教大学コミュニティ福祉学部卒業生会員、コミュニティ福祉学研究科修了生および掲載号の締切日における在籍教職員会員、在学生会員、学外会員が投稿できるものとする。</p> <p>2. 編集委員会 編集委員会は、コミュニティ福祉学会によって選任された教員、卒業生、院生等によって構成され、本誌の編集に関する業務を行なう。</p> <p>3. 原稿の制限 投稿原稿は、他誌に未掲載のものに限る。</p> <p>4. 原稿の種類 【研究論文】 執筆者が調査、分析、論証を行い、何らかの新しい知見を提起する学術論文。 【研究ノート】 論文に準ずるが、比較的短い字数で提示できるもの。一定のまとまりがあれば、中間報告でもよい。 【実践記録、実践報告】 執筆者の実践の記録や報告をまとめたもの。 【書籍の紹介】 「まなびあい」の趣旨に関連するテーマについて書かれた書籍の紹介（書評）をまとめたもの。原稿著者の希望によって、紹介に対する書籍著者からの文章（書評へのリプライ）を記載することができる。書籍著者への依頼は、原則、原稿著者が行うこととする。</p>

【エッセイ】

「まなびあい」の趣旨に関連するテーマについて、自由な形式で書き記したものを。

【現場からの声】

現在の職務、業務を通じて感じたことをまとめたもの。

【その他】

その他、編集委員会が認めた文章（特集に応じた依頼原稿、新任教職員の研究・活動紹介、退職される先生からのメッセージ、大学の授業紹介等）、学会活動や大学に係わる各種報告等。

5. 原稿量

1頁の字数を1200字とし、論文は8～10ページ。研究ノート、実践記録、実践報告は6～10ページ。書籍の紹介、エッセイ、現場からの声は、1～5ページまでとする。その他については、編集委員会が適宜判断を行う。

6. 論文、研究ノートの執筆要領

「論文、研究ノートの執筆要領」を参照。

7. 論文、研究ノート以外の原稿の執筆要領

原稿量以外特に形式を定めない。

8. 提出の様式

原則として電子データ原稿と印刷原稿の両方を提出する。電子データ原稿は、一般に普及しているソフトウェアによる文書、またはテキストデータとし、電子記録媒体もしくは電子メールで提出する。特に明瞭さを要求する図表、写真等については別に併せて提出する。

9. 原稿の募集

毎年度編集委員会が原稿の募集を行い、原則9月末日を原稿提出の締切りとする。毎年11月に立教大学新座キャンパスで行われるコミュニティ福祉学会年次大会において、本誌を配布する。

10. 原稿の掲載

査読は行わないが、投稿原稿が多数の場合は、掲載できないことがある。その判断については編集委員会が行う。

11. 発行媒体

製本雑誌を発行する。原則、オンライン上に掲載する。

12. 提出先

原稿は、立教大学コミュニティ福祉学会運営委員会事務局に提出する。

【エッセイ】

「まなびあい」の趣旨に関連するテーマについて、自由な形式で書き記したものを。

【現場からの声】

現在の職務、業務を通じて感じたことをまとめたもの。

【その他】

その他、編集委員会が認めた文章（特集に応じた依頼原稿、新任教職員の研究・活動紹介、退職される先生からのメッセージ、大学の授業紹介等）、学会活動や大学に係わる各種報告等。

5. 原稿量

1頁の字数を1200字とし、論文は8～10ページ。研究ノート、実践記録、実践報告は6～10ページ。書籍の紹介、エッセイ、現場からの声は、1～5ページまでとする。その他については、編集委員会が適宜判断を行う。

6. 論文、研究ノートの執筆要領

「論文、研究ノートの執筆要領」を参照。

7. 論文、研究ノート以外の原稿の執筆要領

原稿量以外特に形式を定めない。

8. 提出の様式

原則として電子データ原稿と印刷原稿の両方を提出する。電子データ原稿は、一般に普及しているソフトウェアによる文書、またはテキストデータとし、電子記録媒体もしくは電子メールで提出する。特に明瞭さを要求する図表、写真等については別に併せて提出する。

9. 原稿の募集

毎年度編集委員会が原稿の募集を行い、原則8月末日を原稿提出の締切りとする。毎年11月に立教大学新座キャンパスで行われるコミュニティ福祉学会年次大会において、本誌を配布する。

10. 原稿の掲載

査読は行わないが、投稿原稿が多数の場合は、掲載できないことがある。その判断については編集委員会が行う。

11. 発行媒体

製本雑誌を発行する。原則、オンライン上に掲載する。

12. 提出先

原稿は、立教大学コミュニティ福祉学会運営委員会事務局に提出する。

<p>13. 本規程の改正 本規程の改正は、編集委員会の提起に基づき、運営委員会がコミュニティ福祉学会総会に提案し、承認を受ける。</p> <p style="text-align: right;">2007年11月3日制定 2014年11月9日改訂 2015年11月14日改訂</p> <p>&lt; 立教大学コミュニティ福祉学会運営委員会事務局 連絡先 &gt; 〒352-8558 埼玉県新座市北野1丁目2-26 立教大学コミュニティ福祉学部5号館3階コミュニティ福祉研究所内、学会運営委員会事務局 E-MAIL:cchs@rikkyo.ac.jp</p>	<p>13. 著作権の帰属 <u>立教大学コミュニティ福祉学会誌『まなびあい』に掲載された論文、抄録の著作権は立教大学コミュニティ福祉学会に帰属する。ただし、著者が著者自身の研究・教育活動に使用する場合は、許可なく使用することができるものとする。</u></p> <p>14. 本規程の改正 本規程の改正は、編集委員会の提起に基づき、運営委員会がコミュニティ福祉学会総会に提案し、承認を受ける。</p> <p style="text-align: right;">2007年11月3日制定 2014年11月9日改訂 2015年11月14日改訂 2016年11月12日改訂</p> <p>&lt; 立教大学コミュニティ福祉学会運営委員会事務局 連絡先 &gt; 〒352-8558 埼玉県新座市北野1丁目2-26 立教大学コミュニティ福祉学部5号館3階コミュニティ福祉研究所内、学会運営委員会事務局 E-MAIL:cchs@rikkyo.ac.jp</p>
---	---

## 2. 改訂時期      コミュニティ福祉学会総会にて承認後から施行

以上

## 立教大学コミュニティ福祉学会 第2回研究実践奨励賞

岩田 真由美さん（コミュニティ福祉学科2002年卒業）

『その人らしい生き方と逝き様に寄り添って』

（『まなびあい』8号所収 現場からの声）

林 和秀さん（コミュニティ福祉学研究科博士課程前期課程在学中：当時）

『認知症グループホーム（認知症対応型共同生活介護）とは何か

～歴史の変遷からみる「かたち」への一考察～』

（『まなびあい』8号所収 研究ノート）

岩田真由美さんと林和秀さんが研究実践奨励賞授賞式にご出席し、授賞のスピーチをしていただきました。